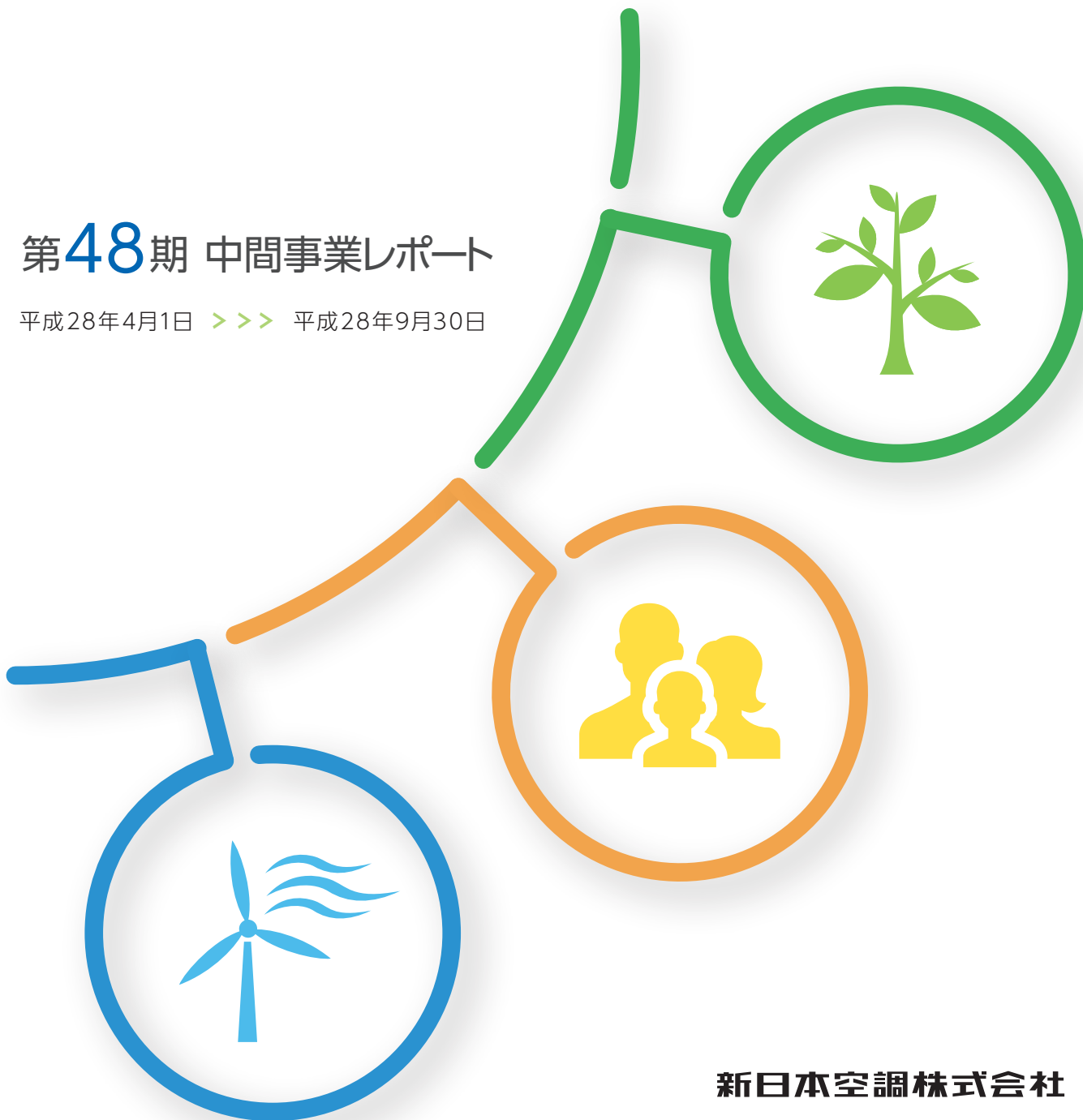


第48期 中間事業レポート

平成28年4月1日 >>> 平成28年9月30日



新日本空調株式会社

トップメッセージ



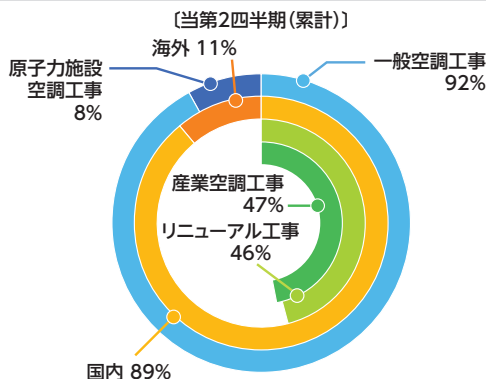
代表取締役社長 夏井 博史

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

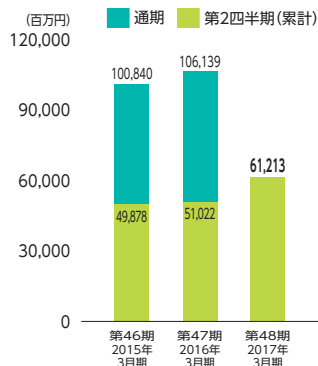
第48期第2四半期連結累計期間(2016年4月1日～9月30日)における国内経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に、緩やかな景気回復基調が継続しているものの、中国をはじめとするアジア新興国の景気減速により世界経済の不確実性が高まり、景気の先行きについては不透明な状況が続いております。建設業界におきましては、民間設備投資の増加が見込まれる一方で、資機材価格の高騰、施工人員の不足やそれに伴う工期遅延等、引き続き懸念材料が残ります。

このような環境の中で、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、完成工事高423億9千1百万円(前年同四半期比26.6%増)、営業利益10億9千6百万円(前年同四半期 営業損失10億2千3百万円)、経常利益

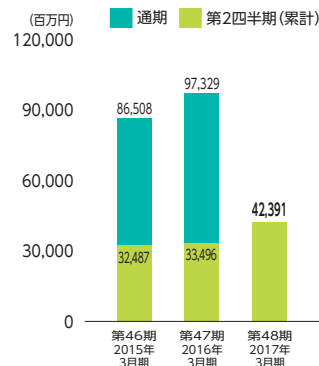
完成工事高内訳



受注工事高



完成工事高





12億4千9百万円(前年同四半期 経常損失8億1千2百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益8億6千9百万円(前年同四半期 親会社株主に帰属する四半期純損失6億1千3百万円)となりました。また、受注工事高につきましては、612億1千3百万円(前年同四半期比20.0%増)となり、その結果、当第2四半期末の繰越工事高は918億8千3百万円(前年同四半期比12.4%増)となりました。

なお、中間配当につきましては、前年同期と同じく1株につき10円とさせていただきます。

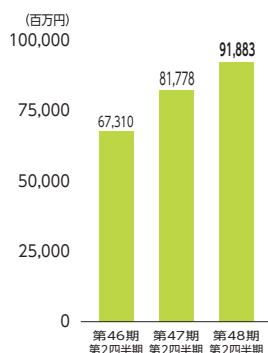
2016年度は中期経営計画「究極真価プラン2016」(2014～2016年度)の最終年度になりますが、キーワードである「ワンストップソリューション」、「グローバル戦略」、「技術開発」、「先進技術」への取組みをさらに加速させ、計画値の達成と連結における受注工事高、完成工事高、繰越工事

高、利益の四つの項目でいずれも前年実績を超えるという「増の四冠」の継続を目指します。

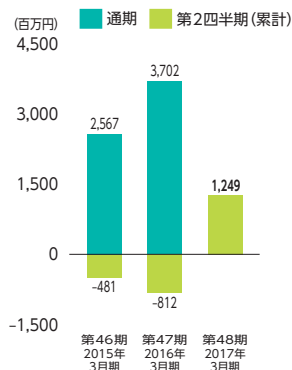
来年度からは次期中期経営計画がスタートします。前中期経営計画では持続的成長発展への基盤を作り、現中期経営計画では収益基盤のさらなる改革と連結完成工事高1,000億円体制の確立を目指しております。次期中期経営計画につきましては、2019年に設立50周年を迎えること、2020年に東京五輪が開催されることを踏まえ、持続的な成長発展を確実なものとしていく「革新と攻めの経営」を基本とした計画を策定してまいります。

株主の皆さまには、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

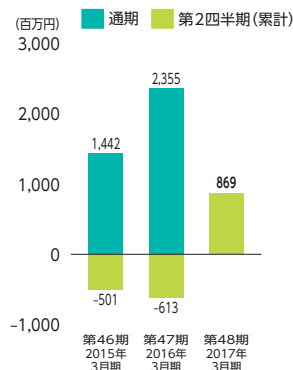
繰越工事高



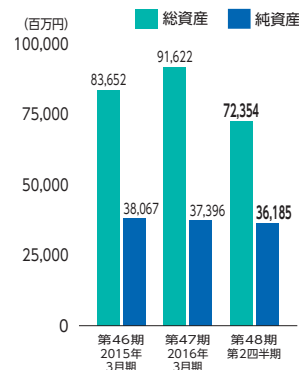
経常利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



総資産・純資産



吊り機器の制震・制振補強「柔ワイヤ工法[®]」を開発 ～剛から柔への発想の転換～

当社は、地震時における吊り機器の新しい(new)補強方法「柔ワイヤ工法[®]」(特許出願中)を開発しました。

天井からボルトを4本用いて設置されている吊り機器に対する地震対策は、X状の斜材を設けて振れ止め補強を行う据付法(X状据付法)が一般的です。この補強方法は、作業が高所で行われ、かつ、部材の準備に採寸と切断作業が伴うため、手間がかかり、作業時間の短縮が求められていました。また、剛性を高めて耐震補強効果を得ますが、地震時に機器の揺れや共振(揺れの増幅)が生じた際、吊りボルトの剛性が一番弱い箇所に応力が集中して、東日本大震災の時にみられた被害事例のように、吊りボルトに破断が生ずることがありました。

そこで当社は、これらを解決するため新たなワイヤの張り方を考案して柔構造とした「柔ワイヤ工法[®]」を開発しました。本工法は、専用のワイヤと取付金具を用いてワイヤが可動するように取り付けることが特徴です。吊り機器が揺れると同時にワイヤが可動し、その可動量を金具とワイヤの摩擦で制御することで、機器の揺れを減衰させます。

本工法の利点は、改修現場における斜材の採寸と切断作業を不要とし、作業時間を従来の約3分の

1以下に短縮可能な点です。また、制振効果によって大きな力の作用がないことで、吊りボルトの破断を抑制し、吊り機器の落下リスクを軽減することができます。

当社は、日栄インテック(株)とともに専用ワイヤの選定ならびにワイヤ取付金具の開発を行い、東京工芸大学工学部の水谷国男教授の学術的な裏付けを得ながら性能検証を実施し、本工法の技術を確立しました。

今後も吊り機器のさまざまな設置条件における検証の結果を蓄積し、配管やダクト設置への工法展開を進めていきます。また、本工法は当社の施工物件以外にも適用を展開しており、お客さまへ安心・安全を提供してまいります。

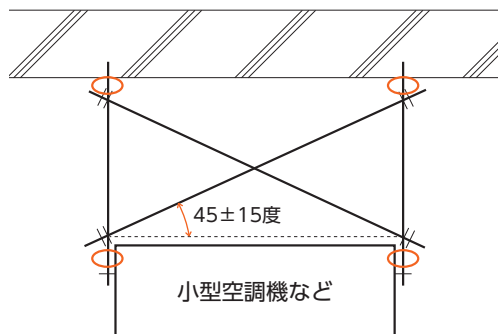


日宝工業(株)の子会社化について

当社は、本年10月31日付で日宝工業株式会社の株式を取得し、同社を子会社化しました。

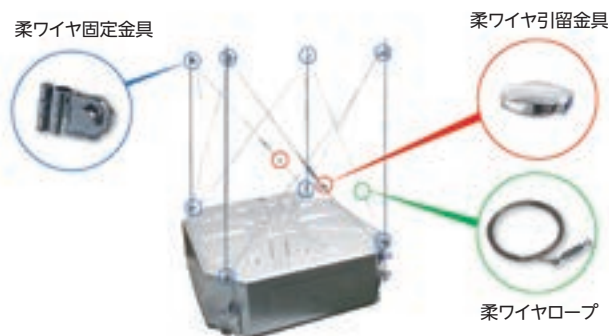
同社は、昭和30年に設立以来、大手自動車会社や大手食品メーカーを中心とした工場の電気設備および空調衛生設備など、産業施設設備分野の工事に強みを持つ会社です。

同社を子会社化し、互いの技術を共有することにより、従来の両社の強みを活かした新たなサービスと、より品質の高い技術をお客さまに提供し、当社グループは事業領域の拡大、顧客満足度の向上に取り組んでまいります。



○：吊りボルトへの応力集中箇所

X状据付法(従来の補強)



柔ワイヤ工法®

日宝工業(株)の会社概要

商号……………日宝工業株式会社

本社所在地……神奈川県横浜市西区久保町7番11号

事業内容……………産業施設設備分野を中心とする電気設備、
空調衛生設備等の設計、施工

資本金……………1億円

設立年月日………昭和30年11月25日



日比谷ダイビル (改修)



- ① 東京都
- ② 空調
- ③ 29,960.50㎡
- ④ 2016年6月

RIU リゾートホテル アフンガラ



- ① アフンガラ (スリランカ)
- ② 空調・衛生・消火・電気・プール設備
- ③ ホテル棟 51,000㎡ 従業員宿舎・設備棟 約4,900㎡
- ④ 2016年7月

エクセディ上野事業所



- ① 三重県
- ② 空調・衛生
- ③ 18,504㎡
- ④ 2016年9月

おりづるタワー (改修)



- ① 広島県
- ② 空調・衛生
- ③ 11,590.63㎡
- ④ 2016年9月

①所在地 ②工事内容 ③規模 ④竣工時期



B.LEAGUE「川崎ブレイブサンダース」のオフィシャルスポンサーに！

当社は、プロバスケットボールB.LEAGUE (Bリーグ) のB1クラブに所属する「川崎ブレイブサンダース」のオフィシャルスポンサーになりました。

B.LEAGUEは、NBL(ナショナル・バスケットボール・リーグ)と、bjリーグ(日本プロバスケットボールリーグ)が統合して新しく誕生した日本の男子バスケットボールリーグで、2016年9月22日に開幕しました。

同リーグは、サッカーのJリーグのJ1、J2と同じようにB1、B2と分かれ、各18クラブで年間チャンピオンを争います。各カテゴリーは全国を、東地区、中地区、西地区の3地区に分け、各地区に6チームが所属しています。シーズンは、それぞれの地区で36試合、他の地区のクラブと24試合の合計60試合を戦い、また、B1とB2の入替戦などもあります。

B.LEAGUE初代王者を目指し、2016年7月に誕生した「川崎ブレイブサンダース」の邁進する選手たちを当社は応援していきます。

川崎ブレイブサンダースWebサイト >>>

<https://kawasaki-bravethunders.com/>

ブレイブサンダースの意味

力強く、スピート感溢れるプレーで、最後まで諦めず勇敢に戦っている戦士たち

ホームタウン：神奈川県川崎市



B1クラブのご紹介

東地区

レバンガ北海道
仙台89ERS
秋田ノーザンハピネッツ
栃木ブレックス
千葉ジェッツ
アルバルク東京

中地区

サンロッカーズ渋谷
川崎ブレイブサンダース
横浜ビー・コルセアーズ
新潟アルビレックスBB
富山グラウジーズ
三遠ネオフェニックス

西地区

シーホース三河
名古屋ダイヤモンドドルフィンズ
滋賀レイクスターズ
京都ハンナリーズ
大阪エヴェッサ
琉球ゴールデンキングス

連結財務諸表

四半期連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

	当第2四半期末 (平成28年9月30日現在)	前期末 (平成28年3月31日現在)		当第2四半期末 (平成28年9月30日現在)	前期末 (平成28年3月31日現在)
資産の部			負債の部		
流動資産	48,853	65,111	流動負債	32,519	50,227
固定資産	23,500	26,510	固定負債	3,649	3,998
有形固定資産	2,973	3,069	2 負債合計	36,169	54,226
無形固定資産	271	275	純資産の部		
投資その他の資産	20,254	23,166	株主資本	30,660	30,158
			資本金	5,158	5,158
			資本剰余金	6,887	6,887
			利益剰余金	19,466	18,964
			自己株式	△ 852	△ 852
			その他の包括利益累計額	5,499	7,237
			その他有価証券評価差額金	5,328	6,708
			為替換算調整勘定	102	461
			退職給付に係る調整累計額	67	68
			新株予約権	26	—
1 資産合計	72,354	91,622	3 純資産合計	36,185	37,396
			負債純資産合計	72,354	91,622

ポイント1 資産

資産は、前期末と比較すると192億6千7百万円減少し、723億5千4百万円となりました。これは、「流動資産」の項目に含まれている「受取手形・完成工事未収入金」が、工事代金の回収により159億9千5百万円減少したこと、および「投資その他の資産」の項目に含まれている「投資有価証券」が28億8千7百万円減少したことが主な要因です。

ポイント2 負債

負債は、前期末と比較すると180億5千7百万円減少し、361億6千9百万円となりました。これは「流動負債」の項目に含まれている「支払手形・工事未払金」が、工事代金の支払により125億3千4百万円減少したこと、および「短期借入金」が33億6千8百万円減少したことが主な要因です。

ポイント3 純資産

純資産は、前期末と比較すると12億1千万円減少し、361億8千5百万円となりました。これは「その他有価証券評価差額金」が13億7千9百万円減少したことが主な要因です。



四半期連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

	当第2四半期(累計) (平成28年4月1日 ～平成28年9月30日)	前第2四半期(累計) (平成27年4月1日 ～平成27年9月30日)
完成工事高	42,391	33,496
完成工事原価	38,280	31,752
完成工事総利益	4,110	1,744
販売費及び一般管理費	3,013	2,767
4 営業利益又は営業損失(△)	1,096	△ 1,023
営業外収益	206	224
営業外費用	53	13
経常利益又は経常損失(△)	1,249	△ 812
特別利益	—	143
特別損失	4	90
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	1,244	△ 760
法人税、住民税及び事業税	47	33
法人税等調整額	326	△ 179
四半期純利益又は 四半期純損失(△)	869	△ 613
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	869	△ 613

ポイント4 営業利益

当第2四半期の建設業界におきましては、民間設備投資の増加が見込まれる一方で、資機材価格の高騰、施工人員の不足やそれに伴う工期遅延等、引き続き懸念材料が残ります。こうした環境の中、営業利益は10億9千6百万円(前年同四半期 営業損失10億2千3百万円)となりました。なお、当社グループは、通常の営業の形態として、工事の完成時期が期末に集中する傾向が強く、一方で、販売費及び一般管理費などの固定費はほぼ恒常的に発生するため、利益は期末に偏るという季節的変動があります。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

	当第2四半期(累計) (平成28年4月1日 ～平成28年9月30日)	前第2四半期(累計) (平成27年4月1日 ～平成27年9月30日)
5 営業活動によるキャッシュ・フロー	2,906	△ 5,402
6 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 111	1,216
7 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,485	2,598
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 309	25
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 999	△ 1,562
現金及び現金同等物の期首残高	7,812	7,507
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,813	5,945

ポイント5 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益12億4千4百万円、売上債権の減少による収入168億2千5百万円、たな卸資産の増加による支出10億4千5百万円、仕入債務の減少による支出123億8千2百万円等により、29億6百万円となり、前年同四半期連結累計期間のマイナス54億2百万円と比較すると83億8百万円の増加となりました。

ポイント6 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出3千7百万円、無形固定資産の取得による支出4千7百万円等により、マイナス1億1千1百万円となり、前年同四半期連結累計期間の12億1千6百万円と比較すると13億2千8百万円の減少となりました。

ポイント7 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の純減少額35億円等により、マイナス34億8千5百万円となり、前年同四半期連結累計期間の25億9千8百万円と比較すると60億8千3百万円の減少となりました。

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要



○ 当社の概要 (平成28年9月30日現在)

商 号 新日本空調株式会社
Shin Nippon Air Technologies Co., Ltd.

設立年月日 昭和44年10月1日

資 本 金 51億5,860万円

従 業 員 数 1,480名(連結)、1,032名(単体)

○ 役員・執行役員 (平成28年9月30日現在)

代表取締役会長	高 橋 薫	専務執行役員	片 山 勝 久
代表取締役社長	夏 井 博 史	常務執行役員	田 町 賢 一
常務取締役 常務執行役員	宇佐美 威 司	上席執行役員	金 石 正 博
常務取締役 常務執行役員	淵 野 聡 志	上席執行役員	三 橋 渡
取締役 上席執行役員	赤 松 敬 一	上席執行役員	和 木 英 人
取締役 上席執行役員	大 宮 祥 光	執行役員	満 山 健
取締役 上席執行役員	下 元 智 史	執行役員	岡 野 登
取締役 上席執行役員	遠 藤 清 志	執行役員	高 橋 秀 幸
取締役 上席執行役員	山 田 勇 夫	執行役員	本 多 豊
社外取締役 (非常勤)	森 信 茂 樹	執行役員	松 浦 正 志
社外監査役	吉岐尾 透	執行役員	増 沢 吾 朗
監 査 役	楠 田 守 雄	執行役員	伊 藤 雅 基
社外監査役 (非常勤)	鶴 野 隆 一	執行役員	中曾根 寛
社外監査役 (非常勤)	城之尾 辰 美	執行役員	浅 岡 克 好
		執行役員	田 中 幹 武
		執行役員	村 松 俊 明
		執行役員	坂 本 裕
		執行役員	所 崇 弘

○ 当社の事業所／関係会社 (平成28年11月1日現在)



株式関連情報 (平成28年9月30日現在)

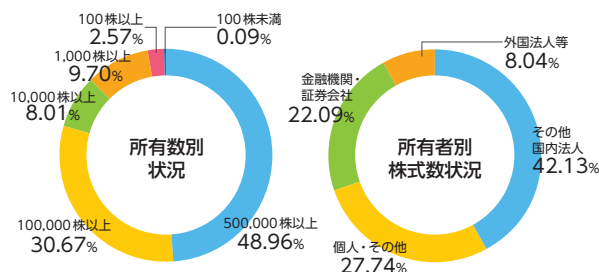
株式の状況

発行可能株式総数	84,252,100株
発行済株式の総数	25,282,225株
株主数	5,053名(前期末比289名減)

大株主

株主名	所有株式数	持株比率
新日本空調協和会	1,996千株	7.89%
インタートラストトラスティズ(ケイマン) リミテッドソールリー イン イッツ キャパシティ アズトラスティ オブ ジャパン アップ	1,349千株	5.33%
三井物産株式会社	1,266千株	5.00%
株式会社東芝	1,255千株	4.96%
株式会社三井住友銀行	1,006千株	3.98%
三井住友信託銀行株式会社	1,000千株	3.95%
新日本空調従業員持株会	997千株	3.94%
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	895千株	3.54%
日本電設工業株式会社	760千株	3.00%
株式会社東京エネシス	571千株	2.26%

株式分布状況



個人・その他	4,698名	外国法人等	56名
その他国内法人	244名	金融機関・証券会社	55名

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	6月開催
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関
郵便物送付先
東京都千代田区丸の内1丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話お問合せ先 ☎ 0120-782-031

1単元の株式数 100株

公告方法 電子公告の方法により、当社ホームページの下記アドレスに掲載して行います。
<http://www.snk.co.jp/>
ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。

各種お手続き 氏名・住所変更、単元未満株式の買取等、株式に関する各種お手続きは、ご利用の証券会社へお問合せください。
なお、未払配当金のお支払いおよび特別口座に関するお問合せについては、三井住友信託銀行にて承っております。

未払配当金および特別口座に関するお問合せ先

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

☎ 0120-782-031 (受付時間: 平日 9:00~17:00)

URL: <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

株主優待のご案内

対象となる株主さま

- 毎年3月31日現在の株主名簿に記録された300株以上の株式を保有する株主さま
- 毎年9月30日現在の株主名簿に記録された300株以上の株式を保有する株主さまのうち、2年以上継続して保有している株主さま

優待品・贈呈時期

- 2,000円相当のカatalogギフト 毎年6月下旬予定
- キッズスマイルQUOカード1,000円分 毎年12月上旬予定

環境と省エネに配慮した最高の組み合わせを考える。
切り札は、新日本空調の技術です。



空気・信頼そして未来、見えないものを大切にします。

見えないけれど、毎日の暮らしにとって、かけがえのないもの。空気も、そのひとつです。オフィス、ホテル、病院、商業施設など、暮らしに身近な場所や社会を支える場所にも。それぞれの環境に最適な空気を、日々欠かすことはできません。人や生き物、さらには機械まで、その場所に存在するすべてにとって、快適で潤いのある空間を生み出すために。新日本空調は、独自のエンジニアリングシステムで、より上質な空気をまだ見ぬ未来へと送りつづけます。